

子どもの貧困率がおよそ6人にひとりとなっていることがわかったのは、2012年のことでした。貧困や格差が、子どもたちに及ぼす影響は計り知れません。心豊かな子ども時代が、次の社会の豊かさに繋がります。

子どもたちがいきいきと伸びやかに暮らせる社会であるために、今、自分たちができることは何かを話し合いました。

●課題提起①



栗林 知絵子さん
NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク代表

数年来、子ども食堂を続けている栗林さんからは、失業率と貧困率から子どもたちを取りまく環境の変化を報告していただきました。

日本の失業率は、世界の中で高いほうではありません。

働いても収入が伸びないワーキングプアが、子どもの貧困を増やしています。

この課題を理解するには、数年後、子どもたちが大人になった時の社会をイメージする、想像力が必要だと思いました。

経済的な損失については、いろんな場面で耳に

してきましたが、子どもたちの生活に格差があることを「人権問題」と捉える栗林さんに、驚きを覚えました。子どもたちを見てきた人ならではのひと言でした。

●課題提起②

浅見 要さん

NPO法人カローレ事務局長
学童保育からスタートしたカローレは、児童館

ミニフォーラム 「子どもをとりまく 現状と課題」

子ども食堂と学童保育室から

見えること

日時 2016年12月17日
会場 生活クラブ生協狭山生活館

なれる。

・自分の回りに起こっているとは思っていないかった。

10年20年後の社会を考えると、今できることを何か始めたい。

・貧困の捉え方に世代間ギャップを感じた。現代の貧困は気付きにくい。

・子どもの頃に、誰かに依存し、肯定してもら

「十分な依存体験」が、コミュニケーションの基本なのだと思った。

・他団体との連携や、協働を勧める上では、大人も相手の良い所を認めあう事で次の繋がりができると感じた。

・子どもの傍に居るだけ支援、子ども食堂に、一緒に食べにいこうよ、と誘うことだけでもいいとわかった。

・今起こっている貧困の問題を自分事にする。

●フォーラムを終えて、自分が理解して終わってはいけなさと感じました。

より多くの人と子どもをとりまく現状を共有できないと、貧困や格差の問題を解決できません。

このフォーラムを次に繋げていきたいと思



鶴ヶ島地域協議会の報告

2017年の予定

「下流老人」の著者

NPO法人ほっとプラス
代表理事

藤田孝典氏講演会

■お問合せ
tsurunetorg@gmail.com